

# 憎めない、憎まれ役に

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(53) 草津市⑩

## はい上がる人

### わたしの歩跡

▲NHK連続テレビ小説「べっぴんさん」(2016年度下半期)で、子ども服作りに励むヒロインたちを苦しめ、心底憎まれる玉井を演じた。大きく分けて3回出演する。初めは闇市、



栄輔役の松下優也さん(手前)を見送る場面で、玉井役として目に涙を浮かべるドンペイさん。役柄になりきり、号泣したという「いずれも本人提供」

1960年代に流行したアイビールックを着てかっこよく出てくるんですけど、カメラが引くと、秘書役として隣にいるのがなんと玉井なんです。

しかも、半ズボン、白のハイソックスという変わったなりなんです。衣装合わせで監督たちが「これがいいと思います」って言ったときは、僕としては正直、これありかかって思ったんですけど、後で共演した伊武雅刀さんが「懐かしいねえ。当時は結構着ていたよ」って教えてくださり、自信がきました。

視聴者に嫌われたままでは悲しいなあと思ってたら、放送開始から4カ月目の17年1月にNHK大阪ホールでファンイベント「男会」があったんですね。高良健吾さんら男優10人ぐらいの中に、悪役としては1人だけ入れてくださり、半ズボン姿で出たんです。約7000人もの応募があって、約1200人が観覧されて。後で放送もされたんですね。

玉井じゃなく、土平ドンペイで出るの、「あまりの酷評に数日間、枕をぬらして寝ました」とか、普段通りおもしろいことを言ったら、その日のネットから「玉井ってあんなヤツやったん?」「笑顔がめっちゃかわいいんやん」「笑つんやな」とか視聴者のイメージが急に

## 玉井の生き方、納得の声



半ズボンに白のハイソックスという奇抜ないでたちで栄輔の側近を演じた

変わったみたいで。日々の放送でも「玉井やったらええよ」「生きるために必死やったらあややる」とか変わってきまして。

撮影現場では主演の芳根京子ちゃんとも写真をよう撮ってたんですね。「玉井の顔して

にらむから、京子ちゃん、おどおどしている顔で撮る」、その後で「2人とも満面の笑みで撮る」って。京子ちゃんが「実はドンペイさんはこんなおちゃめな人です」みたいなことを書いてブログにアップしたら、何万件ものアクセスがあって。急速に玉井人気みたいになりました。

▲視聴者は栄輔の下でも、玉井がいつか悪さをするのではと気をもんだ▼

栄輔の会社が倒産してしまい、商社に買収されるんですね。買収先の西岡徳馬さんと面談して帰るときに玉井が栄輔を見送る形になって言ってます。

「ぼろぼろの時代にひろてもうて、こんなに立派にしてもうて。あなたには感謝してる。せやけど、一緒に泥船に乗って沈むことはできん」。栄輔が裏切られたことを知る場面があるんですね。

玉井としても、土平ドンペイとしての情感も入って、栄輔との別れの場面でも、ものすごい泣いてしまったんですね。視聴者から「やっぱり裏切りよっ たな」という声だけじゃなく、「再度見直してみると、玉井の目に涙が光っていた。玉井としては栄輔との別れはつらかったんや」というのがあって、救われた気持ちになりましたね。

▲憎まれ役なのに、どこか憎めないキャラになっていた▼

【編集局・大澤重人】

▲次回は28日

※ご感想をお寄せください (ohzawas@mainichi.co.jp)。